

令和6年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組テーマ：オープンスペースを活用したユニバーサルスポーツの
実施環境の整備

mini light Mölkky®

一般社団法人 mini light Mölkky®協会



私たちが目指す姿とは…

その地域の誰もが楽しめる商業施設や公園などで、誰もが簡単に楽しめるスポーツの機会を増やして、自然に交流が促進され、健常者と障がい者等の相互理解を深め、**地域内での共生社会を実現**

<課題認識>

体格、年齢、障がいの程度の差によって、できるスポーツが異なることから、同世代や同じ境遇の方だけで楽しむことが多くなってしまい、地域内において、**多世代交流が少ない。**

障がい者や高齢者の中には、公共スポーツ施設まで出向くことが難しい、利用施設内となると狭いスペースでの**運動など制限がある**ケースが多い。

障がい者への理解や共生社会の実現に向け、地域内において**持続可能な仕組み**づくりが求められる。

自然な交流を生み出し、狭いスペースでも出来る、持続的な仕組みをつくる！

1

身近な商業施設や空きスペースをスポーツ活用するため、既存施設において、ソフト面を重視した受入環境の整備

2

ユニバーサルスポーツ（ミニらいとモルック）のプログラムをフックとし、障がいのある方もない方も同じフィールドで安全に誰もがスポーツに親しめる機会の創出

3

ユニバーサルスポーツの意義等に対する理解の醸成を図る人材育成の実施

ミニらいとモルックとは？

	ミニらいとモルック(日本産)	モルック(フィンランド産)
素材	榎の木	白樺の木
重さ	モルック棒80g、スキttl40g	モルック棒400g、スキttl200g
大きさ	直径 3.3cm、モルック棒13cm、スキttl6.5cm	直径 5.9cm、モルック棒22.5cm、スキttl15cm
収納	オリジナルポーチ	木箱もしくは専用カバン
説明書	ポーチ裏面印字	紙冊子
その他	モルッカーりなし、スキttl背面カット	モルッカーり使用



1/5に小さく
軽くなった



オリジナルポーチにスキttlの並べ方が描かれているので、子どもでもすぐに自分で並べることができる。



スキttlに背面カットを入れることで力がない方でも倒れやすい工夫。

オリジナルポーチにいれるだけで片付け終了！軽いので持ち運びも簡単。女性や子どもに喜ばれる可愛さも。



小さく軽くしたことで、小さな子どもや高齢者、障がい（身体だけでなく発達や精神）のある方も、同じフィールドでプレーできるユニバーサルスポーツに！
さらに**室内で安全**にできるという利点から、**福祉・介護施設はもちろん一般家庭や学習塾、企業の交流会イベント**など活用用途が広いいただいています。

こころから、たのしく。mini light Mölkky

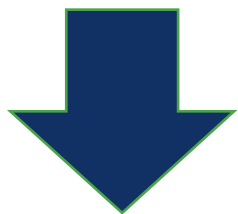
オープンスペースで障がい者がスポーツをするにあたってのハードル

障がい者自身が…

1. スポーツしに*いきたい*とおもっていない。
2. 「そこ」でスポーツができることを*知らない*。
3. 「そこ」に行く手段がない。

オープンスペースが…

1. 障がい者用設備が整っていない。



1. そのスポーツが*楽しくていきたい！*と思う。
2. 「そこ」でスポーツができること*知らせる*。
3. 「そこ」に*一緒に連れて行く人を作る*。

オープンスペースが…

1. 障がい者用設備を*ソフト面でカバー*する。

障がい者参加増加のための具体的な対策

- **施設体験会**を行い、ミニらいとモルックの楽しさを知る。
- 施設**職員が指導員**になり、施設内でプレーをする機会を増やす。
- **指導員を増やし**、各地域で体験会を行い、多世代のプレーヤーを増やす。
- **障がい者スポーツセンターと連携**し、プレーの機会を増やす。

オープンスペースの具体的な対策

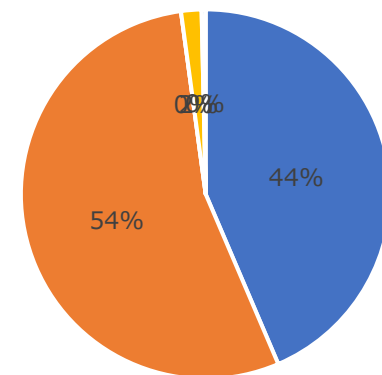
- 下見に行き、施設管理者と打ち合わせをし、**令和5年度のマニュアル**に沿って、危険回避、導線確保、スケジューリングを行い、開催をする。
- 様々な場所で行い、アンケートを取り、**安全確保と自由な楽しさのバランスを精査**していく。



施設：放課後ディサービス、就労継続支援事業所、就労移行支援福祉学院、公立支援学校
年齢：6歳～70代
障がい内容：発達障害、知的障害、肢体不自由など
参加数：総勢280名

計6か所に訪問。
すべての生徒がプレーに参加。支援学校や療育、移行支援の施設では、利用者自らモルック棒を拾ったり、点数をつけるなど、自主性が見られた。そのため職員さんの指導員導入もスムーズに進み、**ミニらいとモルックが部活動の形で定着した施設も生まれた。**

体験会アンケート結果



■ 大変満足 ■ 満足 ■ どちらでもない ■ 不満 ■ 大変不満



こころから、たのしく。mini light Mölky.



施設：障害者福祉センター、障害者スポーツイベント

年齢：10代～70代

障がい内容：発達障害、知的障害、肢体不自由、認知症、視覚障害、聴覚障害など
参加数総勢：400名

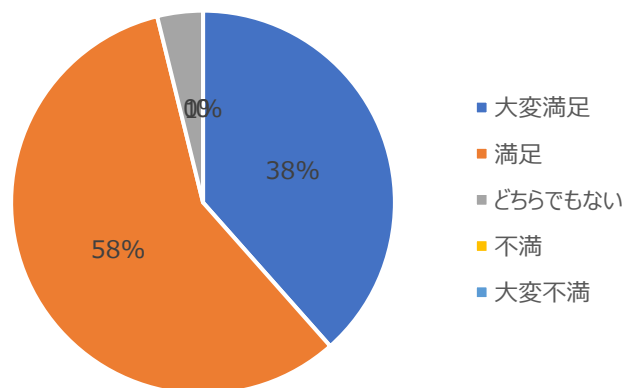
計3か所に訪問。

重度の障がいの方も、ルールを柔軟に変更し、すべての参加者がプレーに参加。

地域・パラスポーツ推進団体と連携して、ボッチャ・風船バレー・フライングディスク・ミニらいとモルックでスポーツイベントを行いました。

障がい者福祉センターでは、**月2回のミニらいとモルック教室として定期開催**がはじまりました。

障がい者スポーツセンター職員アンケート



指導者養成講座の開催

- ミニらいとモルックの効果や楽しさを知り、障がい者に教え、オープンスペースに連れてくる**スキルのあるミニらいとモルック指導員を育成**
- テキストは令和5年度いただく事業で作成したもの

【テキスト内容】

<受講者（5回開催）>
計38名 受講

共生社会について

- ユニバーサルスポーツとは。
- 身体的、精神的、社会的に障害や要支援が必要となるとはどういうことか。
- 同じ地域に住むからこそその相互扶助の理解や対応が何か。

ミニらいとモルックについて

- ミニらいとモルックのルール
- 楽しませ方、声のかけ方
- 大会や教室の進め方などの技術的な指導



指導者養成講習 テキスト

令和6年6月

mini light Mölkky.

スポーツ庁令和5年度「誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり
総合推進事業（学校体育施設の有効活用推進事業）」

mini light Mölkky.

STEP① 基礎知識編

6. 相互扶助の理解や対応について

- 相互扶助とはー
「お互いに助け合い支え合うこと。互いに助け合う協同精神のこと。」
「扶は、支える。「助」は、助け合う。
- ③スポーツを行うにはどのような支援が必要となるのか？
➤相手の状況の程度を知るために、以下の3方向から、状況をとらえることによって、どのような対応が必要かが見えてきます。
→障がい者に加え、健康者においても、日々の状況によって、求められる支援も異なります。
例①この施設に通っているか？などがわかれば地域の方であれば、近くの公民館で行うと通いやすい、などの対応が見えてくる

身体的

身体機能の程度
身体、視覚聴覚、
認知機能など

精神的

対話力、状況把握力など
交流の仕方、言葉の受け取り
方、感情の起伏など

社会的

サポート環境の有無
家族の協力、施設の協力
介助者、送迎、連絡など

13

mini light Mölkky.

STEP② 実践編

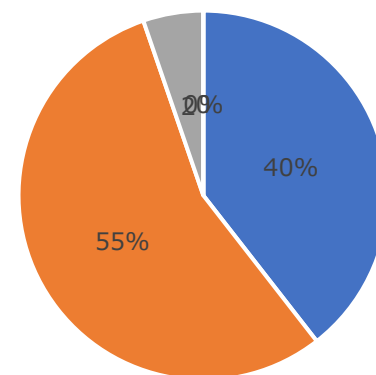
2. 会場での配慮事項について

- 体育館の内部
・壁からの突起物等があり、思いやり子ども、突起物を手で触る、手が届かないところまでおておて。
・体育館等はエアコンが完備されていないこと、室温調整が難しい障害者には適切な温度調整が必要。
・体育館内には、車椅子で利用すること、椅子を並べ、立ち入り禁止と指定した場所を確保し、入ることができないよう対応する。
・トイレ
・体育館内には、車椅子で利用すること、椅子を並べ、立ち入り禁止と指定した場所を確保し、入ることができないよう対応する。
・体育館の内部には、車椅子で利用すること、椅子を並べ、立ち入り禁止と指定した場所を確保し、入ることができないよう対応する。

35

mini light Mölkky.

講習アンケート



■ 大変満足 ■ 満足 ■ どちらでもない ■ 不満 ■ 大変不満

令和5年度に作成したテキストはユニバーサル社会共生のためのミニらいとモルック指導がわかりやすく、また5年度の実績をもとに、障がいの方、介護が必要な方への配慮の具体例も多く、すぐに現場で生きる！と高評価をいただいた。

それにより、ミニらいとモルックの活用が施設や地域団体で指導員が増えたと共に増加した。また障がいのある方が集まるにはどのような安全確保がいるのかもマニュアル化されており、オープンスペースでのイベントにも多く活きた。



8月25日パラスポーツの日



オープンスペース：商業施設イベントスペース、駅中イベントスペースなど

年齢：10代～70代

障がい内容：発達障害、知的障害、肢体不自由、
認知症、視覚障害、聴覚障害など

参加数総勢：**500名**

計5か所で開催。

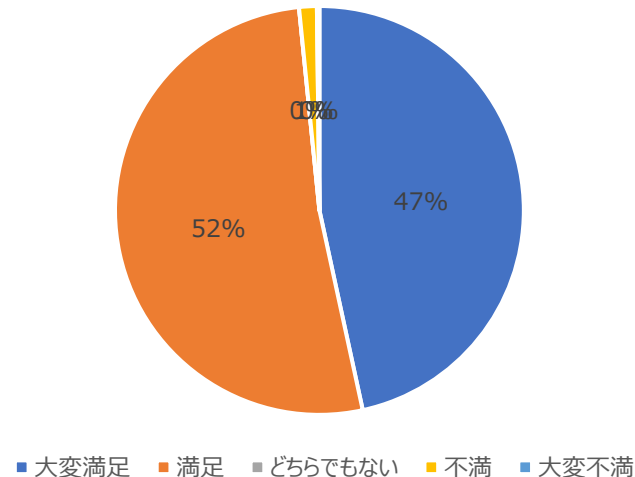
施設職員で指導員の方、令和5年度に指導員となった方が施設利用者や地域の方を連れて参加。

また通りがかりや、チラシやSNSなどを見て参加など、障がいのある方ない方が共に同じ場所でスポーツを楽しんだ。

大会では事前予約制にし、300名以上が参加したがトラブルもなく大きな盛り上がりを見せた。

普段スポーツをする場所ではないところで、スポーツをするには、安全確認、導線確保、誘導、休憩場所の設置など、スペース管理側や有識者との打ち合わせを繰り返し、令和5年で培ったノウハウでマニュアルを作成した。

オープンスペース参加者アンケート



スポーツ庁 令和6年度障害者スポーツ推進プロジェクト オープンスペースを活用したユニバーサルスポーツの実施環境の整備事業

ミニらいとモルックとは。

mini light Mölkky®

フィンランド発祥のモルックを1/5の大きさにした大阪生まれの小さくて軽いユニバーサルスポーツです。

小さく軽くなったら、体格・年齢・障がいの差を感じずに室内で安全に、みんなが楽しめるようになりました!!

ミニらいとモルック体験会

開催日時 **自由参加無料!**
8月5日(月)
11:00~14:00

開催場所 **JR/南海りんくうタウン駅直結**
りんくうパピリオ星の広場

大阪府泉佐野市りんくう往来北

問い合わせ 一般社団法人ミニらいとモルック®協会
大阪市天王寺区東高津町5-17 新聞印刷本ビル4階 050-5527-8293 mlmolkky@gmail.com

こころから、たのしく。mini light Mölkky®

1

- オープンスペースはそもそもスポーツをする場所ではないので、受入環境は不十分であるものの、スタッフや施設、親族等のサポートが必要不可欠となるが下見、打ち合わせの上、様々な想定行い、安全に受け入れることができた。
- そもそもスポーツをするという場所ではないため、数か月という期間での定着化は難しいが、地域スポーツの場としての拠点としては可能性が増えた。

2

- 障がい者福祉施設、スポーツセンター等と連携し、指導員のサポートがあって、参加者を確保し、ミニらいとモルックを通して、一般の方と同じフィールドで障がいの有無に関わらず、共に楽しむことができた。

3

- 人材育成を通して、今後、地域スポーツを担う人材の育成を行うことができた。次年度以降は、この人材を中心に、ファンやボランティア等を増やし、地域で自立することができる環境をさらに整えていく。



スポーツだからこそできる！地域共生のユニバーサルデザインを実現！

こころから、たのしく。mini light Mölkky。